

分析美学の諸問題

Problems of Analytic Aesthetics

- ① 美学(芸術学)の目的
- ② 芸術の定義
- ③ 作品と解釈
- ④ 美の定義
- ⑤ 美の論理学?
- ⑥ 美と意識
- ⑦ 美的と倫理的
- ⑧ 対象化
- ⑨ 情報美学
- ⑩ ジャンル
- ⑪ 進化美学
- ⑫ メタ芸術
- ⑬ 虚構
- ⑭ 観測選択効果(1)
- ⑮ 観測選択効果(2)

第14・15章 観測選択効果

根本的な疑問

1 芸術の前提条件

芸術を可能たらしめた「脳の巨大化」がなぜ生じたか？

2 芸術の発生という前提下において

芸術らしからぬ芸術がなぜ芸術文化の中樞を占めているのか？



↓換言すると……

1 全宇宙における自然選択の歴史のうち、何%が文明(知的生命)を生み出すだろうか？

生命起源に関する知識の現状、ネオダーウィニズムの定説からすると……

レア・アース仮説(「生命を生み出す惑星はきわめて稀である」) →

さらに、レア・アースの中でも、この地球は特別な惑星ではないだろうか？

2 全宇宙における諸文明のうち、何%が芸術を生み出すだろうか？

何%が、コンセプチュアルアートまたはその類縁を芸術と認めるだろうか？

何%が、スポーツや科学論文、政治演説、戦争、テロなどを芸術と認めるだろうか？

脳の巨大化と適応主義 (条件付き確率の式(ベイズ式)は第6章と同型)

犬の多くはよく吠えるという仮説 A

犬の多くはめったに吠えないという仮説 B

目の前のこの犬が出会い頭に吠えたというデータ E

$$P(A | E) / P(B | E) = (P(E | A) / P(E | B)) \times ((P(A) / P(B)))$$

目の前のこの犬の選ばれ方について無知である場合、この犬は犬のランダムなサンプルと見なせるから、

$P(E | A) > P(E | B)$ ← 仮説A、Bの意味と、目の前の犬のランダム性により
よって、 $P(A | E) / P(B | E) > P(A) / P(B)$

.....

地球型惑星の生物進化で、知的生命が生じやすいという仮説 A

地球型惑星の生物進化で、知的生命が生じにくいという仮説 B

足もとのこの惑星において、知的生命が生じたというデータ E

$$P(A | E) / P(B | E) = (P(E | A) / P(E | B)) \times ((P(A) / P(B)))$$

足もとのこの惑星が、地球型惑星のランダムなサンプルと見なせるならば、

$P(E | A) > P(E | B)$ ← 仮説A、Bの意味と、どこが地球になるかのランダム性により
よって、 $P(A | E) / P(B | E) > P(A) / P(B)$

「地球上の自然選択で知的生命が進化した」というデータから、帰納的に
「地球型惑星上の自然選択では知的生命が進化しやすい」という仮説を導くことができそうである。
しかし.....!

脳の巨大化と適応主義

- ① 性質Xが自然選択されるには、短期的にみて、Xがその対立形質Yよりも適応的でなければならない(包括適応度が高くなければならない)
- ② 人間にとって、大きな脳は、小さな脳よりも、短期的に見て、適応的でない
- ∴ ③ 人間の大きな脳は、自然選択によって進化した性質ではない
- ④ 急激な進化を客観確率的(物理的)に説明するには、自然選択以外には不可能である
- ⑤ 人間の脳は、急激な進化である
- ∴ ⑥ 人間の脳の巨大化は、客観確率的(物理的)に説明はできない (③④⑤より)

.....

任意の地球型惑星の生物進化で、知的生命が生じやすいという仮説	A
任意の地球型惑星の生物進化で、知的生命が生じにくいという仮説	B
我々の惑星:地球において、知的生命が生じたというデータ	E

$$P(A | E) / P(B | E) = (P(E | A) / P(E | B)) \times ((P(A) / P(B)))$$

$$P(E | A) = 1 \quad P(E | B) = 1 \quad \leftarrow \text{観測選択効果}$$

$$\text{よって、} P(A | E) / P(B | E) = P(A) / P(B)$$

「地球上の自然選択で知的生命が進化した」というデータから、帰納的に
「地球型惑星上の自然選択では知的生命が進化しやすい」という仮説を導くのは誤りである

例外的な進化の歴史と観測選択効果

- ① 性質Xが自然選択されるには、短期的にみて、Xがその対立形質Yよりも適応的でなければならない(包括適応度が高くなければならない)
- ② 生物にとって、有性生殖は、無性生殖よりも、短期的に見て、適応的でない
- ∴ ③ 有性生殖は、自然選択によって進化した性質ではない

有性生殖のほかに、多くのステップがこの論証を形成するための候補となる。真核細胞、多細胞化、光合成、温血性、生命の出現そのもの……

.....

任意の地球型惑星の生物進化で、各ステップが生じやすいという仮説	A
任意の地球型惑星の生物進化で、各ステップが生じにくいという仮説	B
我々の惑星:地球において、各ステップが生じたというデータ	E

$$P(A | E) / P(B | E) = (P(E | A) / P(E | B)) \times ((P(A) / P(B)))$$

$$P(E | A) = 1 \quad P(E | B) = 1 \quad \leftarrow \text{観測選択効果}$$

$$\text{よって、} P(A | E) / P(B | E) = P(A) / P(B)$$

「自然選択の任意の性質をとったとき、その性質について、地球上の自然選択は、ありうるすべての自然選択の歴史の中で、平凡である」というコペルニクス原理を「進化の速さ」という性質に適用して、

「地球上での生物進化のスピードは、地球型惑星上の自然選択にとって標準的なスピードである」という仮説を導くのは誤りである 地球生物の進化は、あらゆる生物進化の事例の中で(自然選択のメカニズムからすると)異例に速く進んだ事例だった可能性が高い

観測選択効果のメカニズム

自然選択効果

ランダムに生ずる多様な遺伝子型・表現型

↓

環境による選択(変異・選択・遺伝→個体を環境に適応させる遺伝子が繁殖する)

↓

結果として物理的選択により成立する生態系

↓

観測選択効果

自然選択によりランダムに生じたさまざまな生態系

↓

観測者を生む生態系と生まない生態系

↓

観測者を生んだ生態系だけが観測者を通じて自らを観測

↓

結果として論理的選択により原点となり観測される生態系

↓

ランダムな物理系の自然選択(主体無きミクロなパフォーマンス)と観測選択により、デザインされたかのような特権的な環境が観測される(客観的にはランダムに生じた系の一つだが、主観的にはfine-tuningされた好都合な環境として映る)

芸術の普遍的性質(適応的性質)

a~l Denis Dutton *The Art Instinct* pp.52-59

- a. 直接もたらされる快樂
- b. 技術・技巧
- c. スタイル(独創的変異のための不変の背景)
- d. 新奇さ・創造性
- e. 批評の対象となること
- f. 再現・描写
- g. 特別扱いの焦点
- h. 表出的な個性
- i. 情緒の浸透
- j. 知的な挑戦
- k. 伝統・制度
- l. 想像力による経験
- (m. 倫理への従属性)

.....

a, b, d, f, h, i, j, l,生存上・繁殖上の有利性からの副産物(多面発現、前適応)

c, e, g, k, m,社会的適応(自然選択による適応の文化的環境での表われ)

異形の芸術と適応主義

- ① 標準的な文明において、芸術のタイプXが芸術界の中枢を占めるには、そのタイプが「芸術らしい性質」a, b, c...k, l, mの多くを持っていないなければならない(?)
 - ② この文明において、芸術のタイプCは、a, b, c...k, l, mのほとんどを持っていない(?)
 - ③ この文明において、芸術のタイプCは、芸術界の中枢を占めている(!)
- ∴ ④ この文明は、標準的な文明ではない

.....①②は認めてよいだろうか

.....
任意の文明において、③が起りやすいという仮説 A

任意の文明において、③が起りにくいという仮説 B

我々の惑星:地球において、③が起こったというデータ E

$$P(A | E) / P(B | E) = (P(E | A) / P(E | B)) \times ((P(A) / P(B)))$$

- ・ $P(E | A) > P(E | B)$ ← 仮説A、Bの意味と、「この文明」のランダム性により
 - ・ $P(E | A) = P(E | B) = 1$ ← (観測選択効果) (この場合、①②は信憑性を維持)
- ↑どちらが正しいだろうか？

「私」は、必然的に、意識があるところに生まれる(観測選択効果)

意識の有無だけが問題だろうか？ 意識の強度はどうだろうか？

(今、なぜ私は明晰な意識状態にいるのだろうか？)

「私」が生まれたところが必然的に「この文明」になる →→→

「私」はどこに生まれやすいか=どのような文明が「この文明」になりそうか

意識の強度と観測選択効果

「私」は、必然的に、意識があるところに生まれる
ところで、意識の有無だけが問題だろうか？ 意識の強度はどうだろうか？

なぜ私は無生物でなく、生物なのだろうか？

なぜ私は知的生物なのだろうか？ 生物の中で個体数が最も多いバクテリアではなく、最も種類の多い昆虫でもなく、魚類や爬虫類や鳥類でもなく、犬やイルカや猿ですらなく、なぜよりによって最も知能の高い人間という種族に属するのだろうか？

なぜ私は生まれることができたのか？ 私の祖先が私の両親という二個人に収束する出会いを繰り返し、さらに両親の特定の精子と特定の卵子が結合できたのは奇跡ではないだろうか？

なぜ今は、私が幼児でもなく、老衰しきった時期でもなく、今この年齢の時にあたるのか？

今、なぜ私は睡眠中ではないのだろうか？

覚醒中のうちでも、なぜ今は、明晰な意識状態にいる時間帯にあたるのか？

なぜ私は、平均よりも自意識が強い性格なのか？

なぜ私は、哲学や論理などの抽象思考を好むという、必ずしも多数派とは言いがたい類型に属するのか？

なぜ私は、批評的活動が盛んに行なわれる文化環境に生まれ育ったのか？

なぜ私は、適度に安定し、適度に意外なことが起こり、適度に謎のある環境に住んでいるのか？

なぜ私のいる社会は、地球上でも書物がよく流通している社会なのか？

なぜ私は、芸術をよく観賞するのか？

なぜ私は、観賞者の立場に飽きたらず、「芸術とは何か」を考えようとするのか？

私はどのような文明に生まれやすかったか？ どこが「この文明」になりそうだったのか？

科学のある文明かない文明か？ 反科学が科学と認知される文明か？ 反倫理が倫理と認知される文明か？ 反芸術が芸術と認知される文明か？

異形の芸術と観測選択効果

- ① 標準的な文明において、芸術のタイプXが芸術界の中枢を占めるには、そのタイプが「芸術らしい性質」a, b, c.....k, l, mの多くを持っていないなければならない(?)
- ② この文明において、芸術のタイプCは、a, b, c.....k, l, mのほとんどを持っていない(?)
- ③ この文明において、芸術のタイプCは、芸術界の中枢を占めている(!)
- ∴ ④ この文明は、標準的な文明ではない
- ⑤ 標準的文明でないという自覚(明示的なあるいは暗黙の)は、文化的自意識を高める
- ⑥ 文化的自意識が高ければ高いほど、「自分」がそこに見出されやすい

.....

任意の文明において、③が起こりやすいという仮説	A
任意の文明において、③が起こりにくいという仮説	B
我々の惑星:地球において、③が起こったというデータ	E

$$P(A | E) / P(B | E) = (P(E | A) / P(E | B)) \times ((P(A) / P(B)))$$

$$P(E | A) = P(E | B) = 1 \quad \leftarrow \text{観測選択効果 (文化的自意識による観測選択効果)}$$

$$\text{よって、} P(A | E) / P(B | E) = P(A) / P(B)$$

↑

$$\text{④の意味}(P(A) < P(B)) \text{により } P(A | E) < P(B | E)$$

すなわち、①②は真でかまわない

(Cは実際、①②を満たすような括弧付き「芸術」である可能性が高い)

異形の文化と観測選択効果

* 地球文明に該当

- A* コンセプチュアルアートは「芸術」ではなくジョークでもなく、本当の芸術である
- B 文学にもコンセプチュアルアートが認知されている
- C 商業的大衆芸術にもコンセプチュアルアートが認知されている
- D 世界中の芸術史においてコンセプチュアルアートが独立に展開した
- E 自爆テロ、大量殺戮など深刻な反倫理的行為が芸術と認知されうる
- F* 公理主義的な数学、自然科学が発達した
- G 公理主義的な数学、自然科学が、芸術や宗教と同じように世界中で独立に発生した
- H 創造説、占星術、降霊術は疑似科学でなく、科学として認知されている
- I* 矛盾律、排中律を否定した体系が尊重に値する論理学の選択肢である
- J* ポストモダニズムの知的詐欺が「哲学」ではなくジョークでもなく哲学として認知されている
- K* 科学時代に宗教が制度的・法律的に尊重されている
- L ナチズムが尊重に値する倫理的選択肢として認知されている

……A~L……のうち多くが成り立つ文明ほど、自意識による観測選択効果が強い(「私」の文明として選ばれやすい)が、適応主義的に数が少なく、客観的な事前確率が低い(そこに「私」がいる確率が低い)

結果として、**そこそこ自意識の強い、そこそこ少数派に属する文明**に「私」がいる確率が高い
多数派だが自意識の乏しい文明、自意識過剰だが極少数派である文明に「私」が属する確率は低い

区別すべき4つの要因

- 生物学的適応(自然選択)の結果
- 適応の文化的変容
- 偶然の産物
- 観測選択効果の必然的・蓋然的結果(客観確率×主観的観測のされやすさ)

観測選択効果の四段階モデル

二値的な観測選択効果(観測者の存在による)

自然選択によりランダムに生じたさまざまな生態系

↓

観測者を生んだ生態系(文明)だけが観測者を通じて自らを観測する(主観的なfine-tuning)

↓

多値的な観測選択効果 I (観測者の人数による)

観測者を多く含む文明と、少ししか含まない文明

↓

観測選択される文明のうち、観測されやすさは、観測者の数に比例する

↓

「私」は、観測者のうち**多数派に属する**(人口の多い文明に属する)確率が高い

↓

多値的な観測選択効果 II (観測者切片の数による) ←—Bostrom(2002)のSSSA. 疑問の余地あり

この瞬間の「私」は、観測者切片(観測経験の単位)のうち**多数派が属する**観測者である(寿命の長い観測者であるor寿命の長い文明に属する)確率が高い

↓

質的な観測選択効果(自意識レベル、情報処理の密度による)

文化・自然界・自己について哲学的な考察の多い文明(観測者)と少ない文明(観測者)

↓

考察密度の高い観測者が「私」である確率が高い 考察が「考察主体」を原点として自己選択する

「私」は自意識過剰な観測者という**少数派に属する**確率が高い

↓

とりわけ、観測選択効果について考えている瞬間が最も観測されやすい(観測選択効果の自己選択)

文献

マルセル・デュシャン、ピエール・カバンヌ『デュシャンは語る』(1967)ちくま学芸文庫

リチャード・ドーキンス『神は妄想である』(2006)勁草書房

レオナルド・サスキンド『宇宙のランドスケープ』(2005)日経BP社

スティーヴン・ウェブ『広い宇宙に地球人しか見当たらない50の理由』(2002)青土社

三浦俊彦『ゼロからの論証』(2006 青土社)

三浦俊彦『多宇宙と輪廻転生——人間原理のパラドクス』(2007 青土社)

三浦俊彦「進化美学の可能性」(2010)

http://members.jcom.home.ne.jp/miurat/eturan-seigen_idx.htm

Nick Bostrom *Anthropic Bias: Observation Selection Effects in Science and Philosophy*
(2002 Routledge)